

KSKQ あかねニュース No.56

川西市障害者共働作業所あかね

〒666-0017 川西市火打1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101

ホームページ akanesan.net

E-mail rassyai-akanedeluxe.ocn.ne.jp

「あかね」支援者の皆様へのお詫び (就任ご挨拶にかえて)

去る四月一日より理事長に就

任いたしました、芳川 雅美

(よしかわ まさよし)と申しま

す。よろしくお願い申し上げます。

ごあいさつに先だち皆様に、先

般「あかね」が引き起こした不祥

事について、あらためて深くお詫

びを申し上げます。まことに申し

訳ありませんでした。

川西市民の皆様のご浄税を原資

とする助成金を、長期間にわたり

過大に受給してきたことは、たと

えどのような切羽詰まった状況

に追い込まれた結果の行為であ

ったにせよ、全く弁明の余地のな

いこととあります。私たちはこの

判断の誤りを肝に銘じ、二度と

同じ過ちを繰り返さないことを、

あらためて皆様にお誓い申し上げ

る所です。

先般の不祥事はこれまで「あか

ね」を支援し続けてくださった皆

様への背信行為であり、多くの支

援者の皆様から失ったに違いな

い信頼は、これからの「あかね」

の誠実にして熱意に満ちた日常

活動を通じて、回復していくほか

無く、スタッフ一同いっそう気を

引き締めて、心を一つにして新た

な決意で再起する覚悟でありま

す。どうかこれからも、「あかね」

のメンバーたちに対して更なる

ご支援をいただきたく、伏してお

願い申し上げます。

私はこれまで、約四年半にわた

り、いわゆる“外野席”から「あ

かね」にエールを送ってきた者で

す。一部の事務のお手伝いや、イ

ベント、ガイドヘルプなどを通じ

てメンバー、スタッフとも親しく

なり、「あかね作業所」が「就労継

続支援B型」としてNPOに移行

してからは、理事の末席にも加わ

っていました。

この「通信」の場でも数回未熟

な私見を披瀝したこともあるの

で、名前をご記憶の方も居られる

かもしれません。

私は、“現役”時代は民間企業

(メーカー)に勤め、終身雇用制

度に乘って四十年近い勤務のの

ち、定年退職し、その後、「あか

ね」と接点をもちました。

障害者福祉を語るには、まだま

だ知識も浅く、これまでの四年余

りの経験は、所詮「外から見てい

た」ものでしかなく、内側から

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

見るのとは全く違った世界であろうと、想像しています。

私は、このたびの不祥事の責任をとって辞任された前任の光岡先生のあとを継ぐ形で、理事長をお引き受けしました。

先生と私とは、この集団の長として必要な専門知識・周辺知識・実践経験など、いずれにおいても(少なくとも現時点においては)かけ離れています。

加えて、最も必要とされる資質であろう人格・洞察力・実行力・情熱等についてもかねてから尊敬の念をもって接してきた先生の上を行っているのは、年齢だけ(！？)……このように甚だ自信の乏しい段階にあるもの、お引き受けしたからには、自らの足らざるを補うべく研鑽を重ね皆様の二指導も頂戴しながら、「あかねグループ」再興に微力を尽くす決意であります。幸い趣味の合唱や自然観察活動のお陰で、健康だけは何とか維持出来ている前期高齢者です。折に触れ皆様と親しくお話し二指導二助言を頂く機会が持てれば嬉しく思います。

芳川 雅美

私は六十九歳、障害をもつ息子は三十五歳。この息子は私にとって、今は「宝物」の存在。

そう思えるようになったのは、いつ頃からだろう?と思い返してみる。

成長の過程で、どんな風に育てていけば

良いのか、悩んだり、迷ったり情けなくなったり、恥ずかしかったり、苦しかったり、親子で死の淵を彷徨ったことも何回か、。

無常の世を生きる

それから三十五年生きて来た。そのたびに親の私を不思議な力で、「生きる」方向へと導いてくれたのは、まさに、障害を持つ彼であった。

学校へ行けば、いじめられる。どんなにひどい目に遭っても、決して、相手を非難などしない。(できない?)ニコツと笑っている。

言葉もあまりないので、やりかえすこともない。「柳に風折れなし」である。

そんな彼を見て、私はそんなふうには

なれないなあ!

彼みたいに、すべてをあるがままに、受け入れることが出来たら、きっと敵対する人などないのだろう。

でも、そう出来ない自分を恥ずかしく悔しく思う。

今年三月の「あかねの新聞報道」以来、たくさんの方々にご迷惑、ご心配をおかけして、誠に申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げます。

そして、たくさん励ましと温かいご声援を頂きまして、本当にありがとうございます。今回のことにつきましては、深く反省し今後のあかねの活動に生かしてまいります。障害者たちの将来に少しでも不安を取り除くことが出来るような、生きる道を模索し続けて参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

富田 啓子



あかねの地域パートナー紹介 その③

「まいどー」威勢よく、いつも登場する松井さん。

あかねが活動し始めた頃からの支援者で、「あかねはうす」「あかねの夢」のお酒を配達してくださる酒屋さんです。



「一目見ると、忘れることの出来ない？風貌と、個性あふれるキャラクターの持ち主で、いつも元気を頂ける、あかねにとつとでも大切な存在です。」

豪快かつ繊細で、たわいも無い話からあかねの将来まで心配してくださるよきアドバイザーなのです。人と、釣りを愛し、屈託の無い笑い声と笑顔で、周りの人たちに元気を与えてくれます。

月に一度開催されるワイン会「めだかの学校」、素敵な奥さんがフランスで学んできた知識を惜しげもなく披露してくださる。こんな気軽に参加出来るイベントなど、人柄あふれるお店づくりを、僕らも学ばなければならぬと実感する毎日です。「次のイベント盛り上げるでえ」「しっっかり頑張らなあかんやん」

そんな言葉に、後押しされ励まされ「よしっ」と元気を出さなければ！と、あらためて、あかねに対する松井さんの思いやりに感謝です。

渡邊 誠

寄付金・カンパ・助成金のご報告とお礼

(2008年2月～5月) 福田様 サンマルクけやき坂店様
川西市民病院(カンパ缶)様 松浦歯科様
長沢、三田村様 能勢口教会様
三菱電機 socio-roots 基金様

どうもありがとうございました！

あかねはうす 創立二十周年記念パーティへの

ご参加ありがとうございました

一口に二十年。といっても、たくさんの方々の支えがあったからこそ、こんなにも長く続けられたと思えば思うほど、ありがたく、ほんとうに有り難く、人のやさしさに胸がうたれます。

十周年のときの記念誌をひらいてみると、すでに亡くなられた方も数名いらつしやいます。遠くへ引越された方も、十年前、二十年前に想いをめぐらせながらこの先三十年に向かつて、この川西の地で障害者と共に元気に暮らし続けたいと願っています。

どうぞ今後ともよろしくご支援くださいますように、お願い申し上げます。
現在、二十周年記念誌発行の準備を進めています。皆様の原稿をお寄せ下さい。

太田 美雪

ご参加してくださった方々

(順不同・敬称略)

- 山森・竹内・山口・橋詰・岸本
- 岡・古田・十家・勝浦・福永
- 北村・平井・松井・山口・中嶋
- 池上・富永・三好・沼田・神田
- 石光・生田・野田・寺口・松山
- 秦・辻・北上・岡・恵須川・倉本・柴生・高添・阿賀・三原
- 大塚・小西・磯部・東・田中
- 遠藤・梶野・田浦・福岡・小野
- 能勢工業・トレテス・夏目
- 山下・秋山

加えて、メンバー・スタッフ・保護者家族で総勢一〇〇名の盛会となりました。ありがとうございました。

障害者自立支援法

「利用者負担の見直し」

7月利用より実施される。

「ちよつとはマシになるかな」

「作業所に働きに行ってるのに、工賃より負担金のほうが多い。」

「たまにはガイヘルに行つて普通に楽しみたいが、負担が気になって。」

元々、障害者の自立を支援するサービスに原則一割の自己負担というのが、問題おありだったが、案の定、見直しを求める声が大きくなり、利用者負担の上限額が算定される基準が、「世帯全体の所得」から「障害者個人の所得」に変わり、実質大きく減額されることになった。制度そのものの改正ではないが、実質面で「ちよつとはマシに」なったのかな？

あかねでも、「普通に外へ出て、いろいろな経験・体験を楽しむ」外出支援(ガイドヘルプ)が、少しは利用しやすくなつてほしい。

内海 謹一

毎日発行 一九九一年九月三日 第三種郵便物認可 頒価 定価 一〇〇円